

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究所

授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90224	琉球音楽論研究	4単位 通年	1・2	講義	金城 厚(客) マット・ギラン(非)

■テーマ

琉球古典音楽の理論と創作

■授業概要

前期は、琉球古典音楽の構造理論について、楽譜分析と音響分析の両面から明らかにする。楽譜(工工四)について、書誌的、歴史的、音楽論的な問題を検討することによって、古い伝承を正しく理解し、あるいは、現代の演奏を批判的に考察する。また、その応用として、新しい作品を生み出すことをめざす。後期は、工工四理論をさらに詳細に検討する一方、さまざまな理論的側面からの探求を行う。後期の10回分は集中講義で、Matt Gillanが担当する。

■学習目標

前期は、古典音楽の構造理論と作曲技法を理解し、これにもとづいて、昔節様式の楽曲を作曲し、演奏すること。特に、三線部分の楽曲構造を正しく理解できて、譜面上に実現できていることを重視する。後期は、歌三線の理論的理解を深めて、考察できること。

■授業計画・方法

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 《かぎやで風節》の分析 | 16. 工工四の諸問題 |
| 2. 御前風様式の音楽構造 | 17. 歌三線の音組織 |
| 3. 《かぎやで風節》と《花風節》の比較 | 18. 歌三線の旋律形式 |
| 4. 《かぎやで風節》と《稲まつん節》の比較 | 19. 舞踊作品の音楽 |
| 5. 昔節の音楽構造 | 20. 組踊の音楽 |
| 6. 早間・本間・長間について | 21. 野村流声楽譜の技法1 |
| 7. 本間の楽曲を作る | 22. 野村流声楽譜の技法2 |
| 8. 長間の楽曲を作る①全体構造の見通し | 23. 発声法 |
| 9. 長間の楽曲を作る②上の句 | 24. リズム |
| 10. 歌詞を選ぶ | 25. 伝承論 |
| 11. アゲとサゲの技法について | 26. 三線と歌の相互関係の検討① |
| 12. 長間の楽曲を作る③下の句 | 27. 三線と歌の相互関係の検討② |
| 13. 早間の楽曲を作る | 28. 三線と歌の相互関係の検討③ |
| 14. 楽譜(工工四)の書法について | 29. 八重山の三線音楽 |
| 15. 演奏の確認
試験(発表会) | 30. まとめ
(21～30は集中講義) |

■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

毎回の自習課題の確実な実施が肝要である。自習として、授業で説明された通りに自分で分析表に書き込んでみること、また、自分で楽譜(工工四方式、または五線譜)を書いてみることも不可欠である。

■成績評価の方法

□方法

自作品の譜面(工工四)提出(50%)、同作品の公開演奏(30%)、日常の授業で課する自習課題の確実な実施(20%)

□基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科の学生には、より深い学術的な理解が求められる。

■教科書、参考文献等

□教科書

金城厚『沖縄音楽の構造—歌詞のリズムと楽式の理論—』第一書房

大湾清之『琉球古典音楽の表層』アドバイザー

□参考書

ロビン・トンプソン『琉楽百控』榕樹社